

留学報告書

～邂逅～出会いが私を成長させてくれた～

ジョージブラウン大学
外国語学部（中期）

2023年8月から12月まで、カナダのトロント、オンタリオ州にあるジョージブラウン大学に留学をしました。留学は、高校生の頃からの大きな夢であり憧れであったため、実現できたことに非常に喜びを感じました。留学を決断した理由は、異国の地に身を置くことで自分の英語力を試すだけでなく、異文化に触れ、他国の人々との交流をすることで得るものがあるのではないかと考えたからです。初めての留学経験を通して、何を学び、何を得ることができたのかを報告します。

まず、私の留学先であるトロントは、世界中から移民が集まっている多国籍文化の都市です。また、北米では、ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴに次いで4番目に大きな都市です。大都市で生活すること自体が人生で初めてだったので、日々新鮮でした。多民族都市であるトロントは、街を歩いていると英語だけではなく、ほかの言語も頻繁に耳にしました。

希望を胸に、憧れであった留学がスタートしました。約13時間のフライトを経て、真夜中にホームステイ先に到着しました。到着時間が約一時間遅れてしまい、不安や緊張、そして遅れてしまった申し訳なさでいっぱいだった私をホストファミリーは笑顔で優しく、そして温かくハグして迎えてくれました。私はその瞬間、留学に対しての不安や緊張が少し和らぎました。私が留学をやりきることができた理由として、ホストファミリーの支えがとても大きいです。私のホストファミリーは4人家族（父、母、娘2人）のカナディアンだったのですが、みんな優しくエネルギーで、笑顔が絶えない家庭でした。ホームシックや時差ボケで悩んでいた時には、温かい紅茶を入れてくれ、親身になって話を聞いてくれました。また、留学してすぐの頃、疲れや慣れない気候で体調を崩してしまった際には、常に私の心配をして、厚手の毛布を持ってきてくれたり温かいスープを作ってくれたりしました。また、毎晩ディナーの時間には、その日の出来事についてコミュニケーションをとっていました。みんなが笑顔で聞いてくれたので、会話をしているととても心地よかったです。家族や友達以外の人と長期間過ごすことは人生で初めてでしたが、常に快適に過ごすことができ、非常にいい経験になりました。私を本物の娘のようにお世話をしてくれたホストファミリーには感謝してもしきれません。まだまだ英語が拙い私を受け入れて、たくさん話を聞いてくれた人柄の良さに憧れ、私もそのような人になりたいと思いました。

ジョージブラウン大学の ESL (English as a Second Language) コースは、レベルごとにクラス分けがされており、合格することができたなら次のレベルへ上がることができるという仕組みでした。授業内容は、レベルによって違いましたが、4 技能を満遍なく学ぶことができる授業でした。英語を英語で学ぶことの楽しさに気づくことができました。スピーキングやグループディスカッションを中心とした授業がありました。初めは自分から積極的に発言することができず、自分が何を言いたいのかもわからず、落ち込むことが何度ありました。一回目のグループディスカッションのテストでは、クラスメイトの発言力に圧倒されて、自分からなかなか意見を言うことができずに終わってしまいました。授業後に、先生にどうしたらもっと積極的に話すことができるかを相談したら、先生は、日本人の個性であり、文化でもあるのはわかるが、ここはカナダだから、自分をもっと出しているのだよとアドバイスをしてくれました。それから、授業では積極的に発言をするように心がけ、帰宅後も練習をして、先生やクラスメイトに背中を押してもらいながら慣れることで、今では自分の意見を言うことにためらいや恥がなくなりました。また、留学開始日から、私は英語で日記を書くことにしました。初めは何をどう書いていいかわからず、非常に子供っぽい日記になってしまうことが多かったです。しかしそれでも毎日欠かさずに英語日記を書いていた成果が授業のテストで発揮されました。それは、ライティングのテストです。留学前はどちらかというとライティングには苦手意識を持っていました。しかし、苦手ながらも毎日日記を書き続けることで、自分の書きたいことがスラスラと書けるようになり、喜びを感じるようになりました。ライティングのテストでは、すべて高得点を取ることができました。今では、英語を書くことに対して苦手意識がなくなるようにまで成長したことが非常に嬉しいです。

授業後は友達とよく様々なカフェに行きました。9月の学校主催のクルーズパーティーで友達を作ることができ、色々な国籍の友達に出会うことができ、それぞれの国の文化について知ることができたことがとてもいい機会となりました。約4か月という短い間でしたが、授業のことからプライベートのことまで何でも話せるような心を許せる友達に出会えたことが嬉しかったです。初めは、英語が間違っていたらどうしようという不安から、友達とうまくコミュニケーションをとることができませんでした。しかし、文法のミスはそこまで気にせず、相手に伝える意思や気持ちがあれば、言いたいことが伝わることに気づきました。それから、英語のミスに気を取られず、友達とコミュニケーションをとることができるようになりました。私の友達には、日本の食や文化が好きと言う友達もいて、日本人としての誇りや嬉しさを感じるすることがありました。

英語力を向上させることだけが留学の目的ではなく、日本では経験できないことをすることも留学の一部であるということに気づくことができました。人の優しさに気づくことができたり、自分の英語力に失望したときに、どうやって立ち直ることができるのかを考えたりすることもできたので、この留学で得るものはたくさんありました。慣れない環境でも、

自分の問題の解決方法を考えるために、自分と向き合う時間を作ったり、他者とのコミュニケーションを大切にしたりすることもできました。この貴重な経験が経験として終わることなく、将来に役立つように、大学生生活を後悔なく終わらせようと考えました。夢だった留学を何事もやってみないと始まらないという精神で挑み、乗り越え、悔いなく完遂させることができよかったです。

